

資源管理基礎調査事業（ワカサギ・シラウオ）

前田 穰

目的

小川原湖での重要漁業対象魚種であるワカサギ及びシラウオの安定漁業に向けた資源管理のため、漁獲状況を明らかにする。

材料と方法

1. ワカサギの水揚げ状況

小川原湖漁協に水揚げされたワカサギについて漁協への聞き取りを行い、全漁獲量と船ヶ沢分場取扱数量を取りまとめた。

2. 水揚げされたワカサギの体長

4～6月、9～12月に船ヶ沢分場に水揚げされたワカサギについて標準体長を測定した。

3. 水揚げされたシラウオの体長

4～6月、9～1月に船ヶ沢分場に水揚げされたシラウオについて標準体長を測定した。8月に漁協が行った試験操業で得られたシラウオについても標準体長を測定した。

結果と考察

1. ワカサギの水揚げ状況

船びき網漁、ふくろ網漁、胴網漁があり、船びき網漁のものは小川原湖漁協船ヶ沢分場に水揚げされて入札にかけられる。また、ふくろ網漁と胴網漁のもの多くは相対取引により流通する。現在、資源保護のため内水面漁業調整規則により禁漁期間(3/16～4/20、6/21～8/31)が定められているほか、漁協により1日の漁獲制限数量が設けられている。漁獲量は平成16年に大きく落ち込んだが、直ぐに回復した(図1)。しかし以前より変動幅が大きい。平成24年は約360トンと低調で、H22年の異臭問題以降、ワカサギの価格が低迷していることを受けて、漁獲制限数量を低い水準で継続しているためである。平成25年の分場取扱数量は、約109トンと少なかったが、これも漁獲制限数量を低水準に維持していたことによるものである。

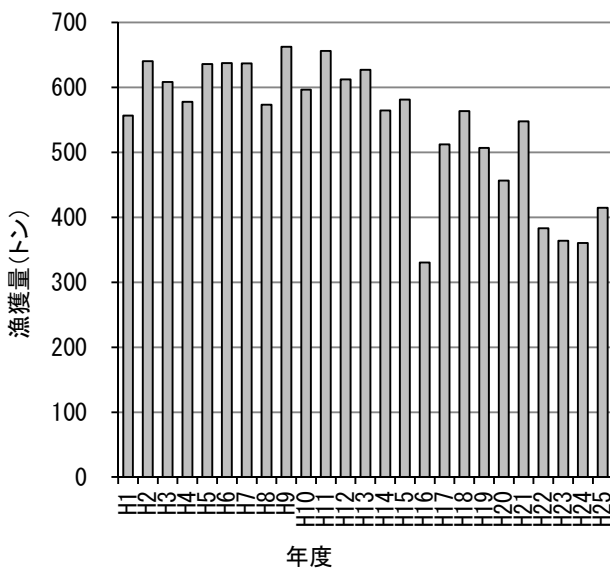


図1 小川原湖での年度別ワカサギ獲量の推移
(4月から翌年3月で集計)

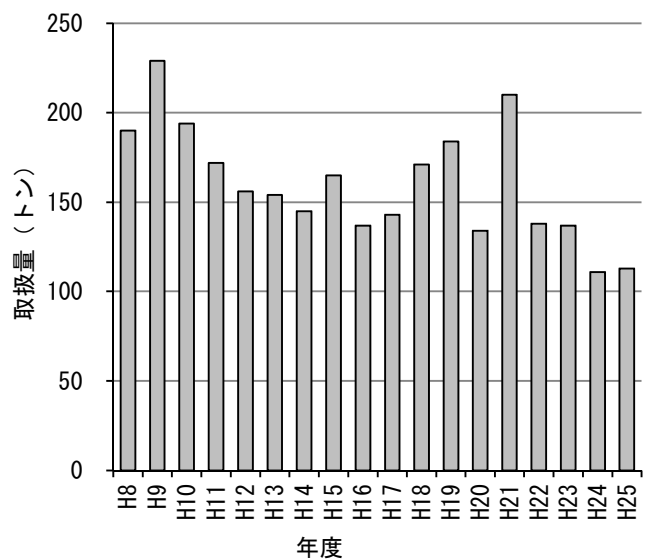


図2 船ヶ沢分場での年度別ワカサギ取扱数量の推移
(4月から翌年3月で集計)

2. 水揚げされたワカサギの体長

5月の体長組成は8~9cmにモードを持つが、6月の体長組成は5~6cmにモードが移行し、小型化した(図3)。漁協職員からの聞き取りによれば、小川原湖及び流入河川でのワカサギの産卵は3~4月であり、産卵個体の斃死により、体長組成が小型化したものと考えられた。

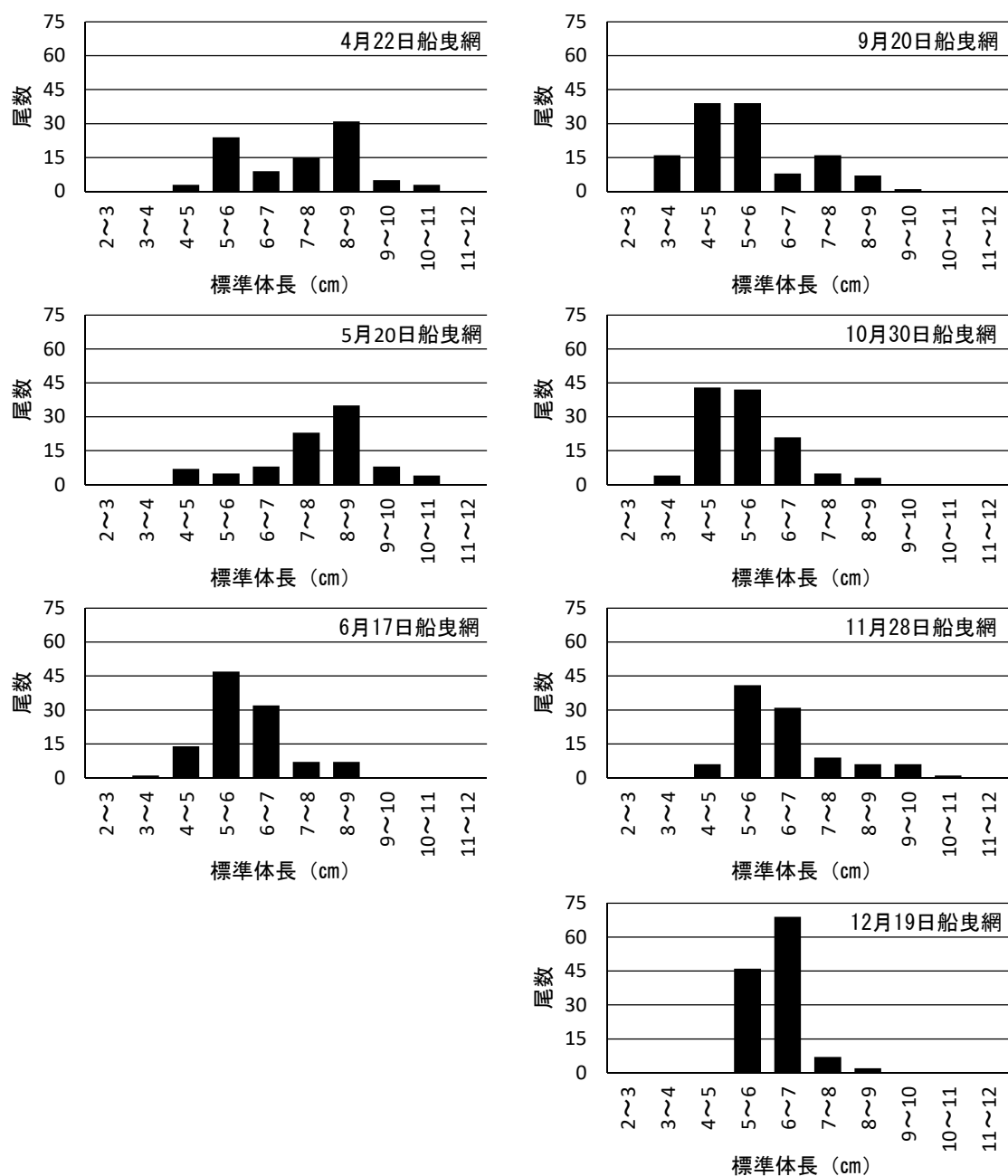


図3 ワカサギの体長組成

3. 水揚げされたシラウオの体長

いずれの月の体長組成も、1つのモードをもつ単峰型であった(図4)。

6月の体長組成は6.5~7.5cmにモードを持つが8月の体長組成は2.5~3.5cmにモードが移行し、小型化した。漁協職員からの聞き取りによれば、小川原湖及び流入河川でのワカサギの産卵は5~6月であり、産卵個体の斃死により、体長組成が小型化したものと考えられた。

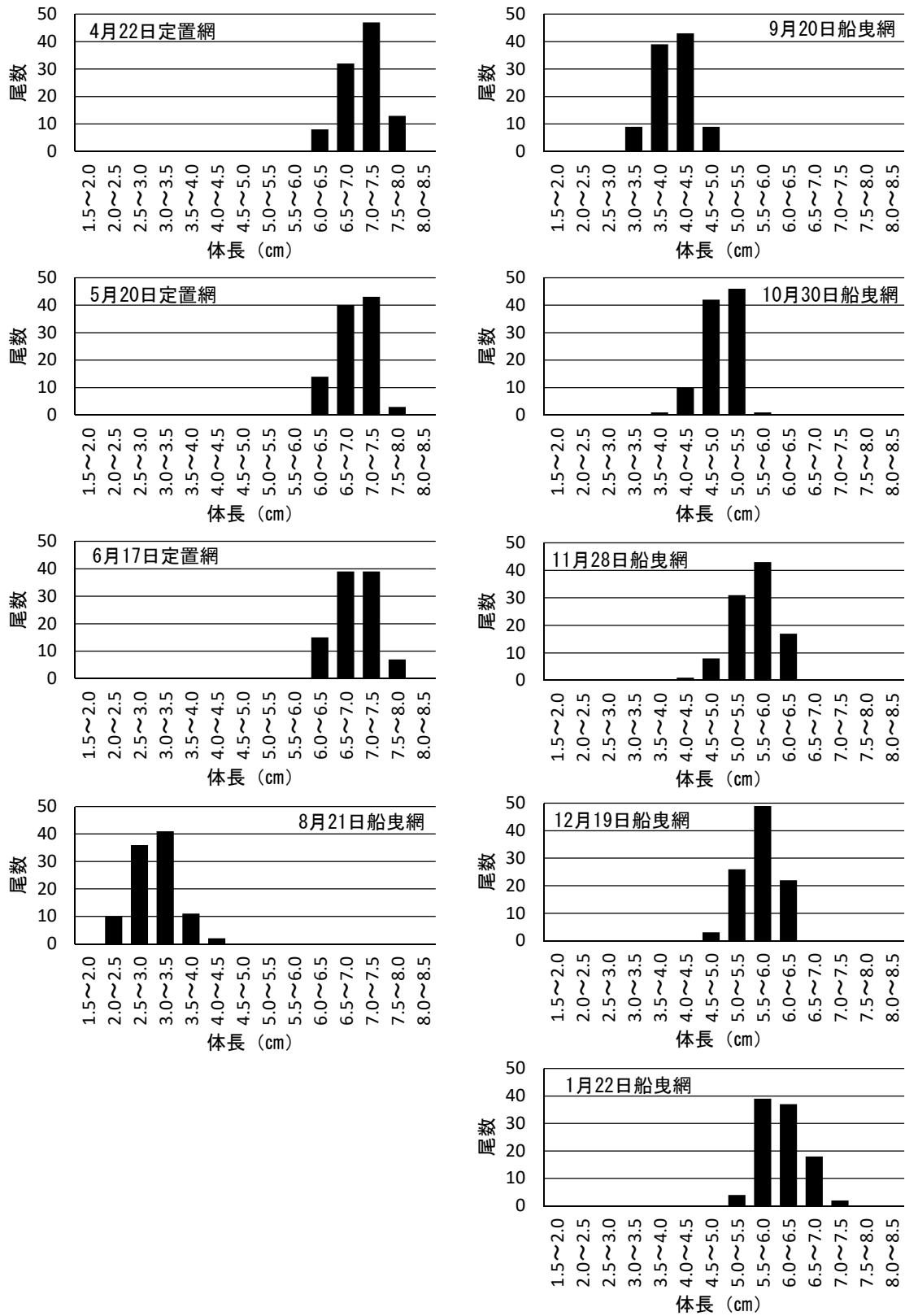


図4 シラウオの体長組成